

銀の馬車道完成 140 周年・姫路城グランドオープン 1 周年記念

リヨン出身フランス人土木技師が兵庫に遺した歴史産業遺産と日仏交流の軌跡

リヨンと結ぶ銀の馬車道

日仏

バラの祭典

Festival des roses franco-japonaises

2016年
3月26日(土)・27日(日)

第1会場 **27日** 姫路キャスパホール 1部/10時30分～12時 (10時開場)
姫路市西駅前町 88 (参加無料・定員 320名) 2部/13時30分～16時 (13時開場)

■1部 | オープニングセレモニー

特別パネル展示あり

■シンポジウム「銀の馬車道の魅力と広がりー日仏協働による近代産業の幕開けー」

司会 中元 孝迪 (兵庫県立大学教授・播磨学研究所所長)

パネラー 白井 智子 (兵庫県立大学客員教授)「レオン・シスレーと新資料に見る銀の馬車道」

(発表順) 菊地 勝弘 (横須賀市自然・人文博物館学芸員)「フランス文化が宿る横須賀製鉄所」

末岡 照啓 (住友史料館副館長)「フランス人技師と生野・別子鉱山の近代化」

足立 裕美子 (兵庫県ヘリテージマネージャー)「銀の馬車道沿線における景観のポイントー遺産調査と考察ー」

■2部 | コンサート「バラよせてーフランス歌曲ー」

出演者 林 裕美子 (声楽家・エリザベト音楽大学教授)

■講演会 I 「リヨンと銀の馬車道ーバラが紡ぐ日仏の絆ー」

講師 ビエリック・エベルアール (ジャーナリスト・作家) (使用言語: フランス語・通訳付き)

(発表順) 「バラの都・リヨンー数多のバラの誕生と絵画・絹織物との関係ー」

白井 智子 (兵庫県立大学客員教授・姫路日仏協会会長)

「生野銀山お雇いフランス人とリヨンー植物を通じた日仏交流ー」

ドミニク・マサド (バラ育種家) (使用言語: フランス語・通訳付き)

「シスレーとギヨーー日本の影響ー」

■講演会 II 「パリ・リヨン・兵庫ースイーツを通じた日仏交流ー」

講師 小山 進 (「パティシエ エス コヤマ」オーナーシェフ)

第2会場 **26日・27日** 大手前公園 10時～17時
姫路市本町 68

■日仏食の祭典 ひめじ・銀の馬車道フレンチマルシェ (協力: 食・地の座)

同時開催: 「豊穰の国・はりま」大物産展 (播磨圏域連携中核都市圏主催)



主催: 姫路日仏協会 主催者代表・コーディネーター: 白井 智子 (姫路日仏協会会長・兵庫県立大学客員教授・神戸大学大学院学術研究員)
後援: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、兵庫県、兵庫県教育委員会、姫路市、姫路市教育委員会、朝来市、神河町、市川町、福崎町、兵庫県立大学
神戸大学国際文化学術研究推進センター、日本仏学史学会、(公財) 姫路市文化国際交流財団、(公社) 姫路観光コンベンションビューロー、姫路商工会議所、フランス観光開発機構
協力: 姫路市、食・地の座、中播磨地区商工会連絡協議会、大塚製菓株式会社
助成: 笹川日仏財団、但陽信用金庫、(公財) 姫路市文化国際交流財団、兵庫県中播磨県民センター、銀の馬車道ネットワーク協議会



明治元(1868)年より14年間、明治新政府は日本の近代化を推し進めるために鉱山技師ジャン・フランソワ・コワニエ(Jean François Coignet)を筆頭に総勢20数名のフランス人技師らを雇用し、生野銀山の再開発を手がけました。その開発に必要な機械類や物資の円滑な輸送ルートとして、今から140年前の明治9(1876)年、飾磨津(現・姫路港)～生野銀山間約49kmの間にヨーロッパの最新技術を導入して馬車専用道路「銀の馬車道」(正式名称:生野鉱山寮馬車道)が建造されました。当時日仏双方で注目を浴びたこの「日本初の高速産業道路」を設計したのが、リヨン出身の土木技師レオン・オレリアン・シスレー(Léon Aurélien Sisley)でした。

今年は「銀の馬車道」完成140周年、姫路城グランドオープン1周年に当たります。これを記念して、博士号取得に至ったこれまでの研究成果および新たに入手した「銀の馬車道」に関する資料や情報を広く公開したいと考え、本祭典を開催することに致しました。本祭典では、日仏両国の各専門家をお招きし、当時の日仏交流の様子や両国での馬車道の評判、バラを始めとするゆかりの植物、フランス人が日本に遺した歴史産業遺産などを紹介して、より一層多面的に「銀の馬車道」の魅力に迫ります。また、フランスでも高く評価されている兵庫のパティシエによるフランスのスイーツについての講演、バラをモチーフにしたフランス歌曲のコンサートのほか、屋外では「フレンチマルシェ」を開催し、皆様をフランスの文化・芸術の世界へと誘います。

桜の蕾ほころび始める早春の姫路で、フランス人が馬車道を往来した当時に思いを馳せながら、明治のロマンとフランス文化溢れる本祭典をぜひお楽しみください。

姫路日仏協会会長 白井智子

プロフィール

姫路日仏協会会長、兵庫県立大学客員教授、神戸大学大学院学術研究員。博士(学術)。
神戸大学国際文化学研究所博士後期課程修了。パリ第4大学・クレルモン＝フェラン第2大学・パリ第7大学修士・博士課程で日仏文化交流史、フランス語教育、フランス文学、日本語教育を専攻。グルノーブル第3大学専任講師、姫路獨協大学准教授を経て現職。教育・研究の傍ら日仏交流親善にも尽力している。「生野お雇いフランス人」ならびに「銀の馬車道」の研究は2005年より開始。銀の馬車道の歴史的意義や当時の日仏交流の研究を通して、学術面から地域振興のための「銀の馬車道」の活用法を提言している。「生野銀山お雇い外国人ジャン・フランソワ・コワニエと日仏交流」(博士論文)、「別子銅山古文書に見る明治初期の生野銀山と別子銅山の相互関係—お雇い外国人コワニエと広瀬幸平の交流を通して—」(2013)など論文多数。銀の馬車道ネットワーク協議会運営委員・日本仏学史学会理事・(公財)姫路市文化国際交流財団理事・播磨学研究所研究員・ひめじ観光大使ほか。

ドミニク・マサド *Dominique Massad*



フランス・マルセイユ出身。農学および園芸を専攻。母方は1830年代からバラの育種を始めた著名バラ育種家ファミリー・ギヨール(Guillot)家。色彩・芳香・形状の新しいキャラクターを庭園のバラに導入することを目的として、35年にわたって新種のバラの育種に情熱を注いでいる。これまで170種以上のバラを生み出し、世界中のバラ市場に売り出している。

中元 孝迪 (兵庫県立大学教授・播磨学研究所所長)

東京教育大学文学部卒。64年神戸新聞社入社、論説委員長、常任監査役、姫路獨協大学副学長を経て現職。地域季刊誌「パンカル」編集長、銀の馬車道ネットワーク協議会会長。日本記者クラブ、日本ペンクラブ会員。主な著書に「姫路城 永遠の天守閣」「姫路城100ものがたり」など。

菊地 勝広 (横須賀市自然・人文博物館学芸員/博士(工学))

国立宮城高専建築学科、工学院大学大学院工学研究科建築学専攻を経て現職。ヴェルニー記念館の管理運営担当。2005年から2006年にフランスのプレスト市で派遣勤務を行い、以後、横須賀製鉄所を中心とした日本へのフランス系建設技術の導入に関する研究を進めている。

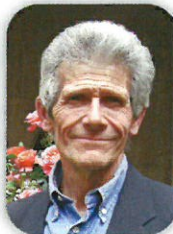
末岡 照啓 (住友史料館副館長)

1978年國學院大學文学部史学科卒。住友史料館主席研究員を経て現在に至る。その間、新居浜市広瀬歴史記念館名誉館長・特別顧問を兼務。著作に『ルイ・ラロック著・別子鉱山目録見書』(住友史料館)、『住友別子鉱山史』(共著 住友金属鉱山(株))など、その他論文・講演多数。

足立 裕美子 (環境デザイナー・一級建築士)

国立明石高専建築学科卒業後、神戸・姫路市内の建築事務所勤務を経て(株)環境設計開設。銀の馬車道ネットワーク協議会運営委員、兵庫県ヘリテージマネージャー。都市環境・歴史的景観を基に地域の活性化について取り組み、まちづくりへの提言を行う。

ピエリック・エベルアール *Perrick Eberhard*



ジャーナリスト・作家。パリ政治学院歴史学科卒。「リヨン・バラ、リヨンとバラの愛の歴史」「リヨンとローヌ県の公園と庭園案内」「私の庭のバラ」など園芸・庭園・バラに関する著書多数。2015年5月に世界バラ協会がリヨンでバラの世界大会を開催した際に(40か国800名の参加者)、リヨン市が企画した展覧会「バラ、リヨンの歴史」の企画を担当した。

小山 進 (「パティシエエスコヤマ」オーナーシェフ)



2003年、兵庫県三田市に「パティシエエスコヤマ」をオープン。「上質感のある普通味」を核にプロフェッショナルな味を展開し続けている。フランスのチョコレート愛好家協会「C.C.C.」のコンクールで初出品の2011年から5年連続で最高位を獲得。また、サロン・デュ・ショコラパリで「外国人部門最優秀ショコラティエ賞」を3度受賞。2013年からはニューヨークでのアメリカ大会を経て、ロンドンで開催されたチョコレートのコンクール「International Chocolate Awards 世界大会」で数多くの金賞(1位)を受賞するなど、ショコラティエとしても世界から注目を集めている。著書に「丁寧を武器にする」「心配性だから世界一になれた」(共に祥伝社)などがある。

姫路日仏協会

兵庫県姫路市新在家本町1-1-22
兵庫県立大学・播磨学研究所内
TEL090-7343-8746
<http://www.sfhimeji.com/>

